

2021年1月30日

新型コロナウイルスの影響下における試合運営の手引き(第3版)

山形県1種委員会・山形県社会人連盟

本手引きは、山形県1種委員会及び山形県社会人連盟主管の競技会を開催するにあたり、新型コロナウイルスの感染症対策の詳細な部分を想定して設定しています。

競技会・試合運営に携わる皆様に本手引きの内容を理解いただき、主管地区委員会、参加チーム、審判員を中心に連携をはかりながら、円滑な運営につなげていただき、試合成立へ向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。

1. 事前の対応

主管地区委員会は、会場において感染対策の準備を行うとともに、参加チーム、審判員等に対し感染防止のために遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。

(1) 感染対策責任者の設置

主管地区委員会及び参加チームは、事前、試合日、事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築するため、それぞれ感染対策責任者を設置する。

-1. 感染対策責任者の主な作業内容

主管地区委員会及び参加チームの感染対策責任者の主な作業は以下のとおりとし、感染対策が実行されているかを確認し、改善を要する場合、その旨指示する。

主管地区 委員会	<ul style="list-style-type: none">① 競技会運営における感染対策の立案、必要に応じてチェックシートの見直し② 競技会運営関係者および参加チーム等への感染対策計画の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・手指消毒液の設置確認および切れていないか、不足箇所がないか適宜巡回し確認する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・チーム、審判団の体温を記入したものを管理・その他関係者の体温を記入したものを管理・体温計の管理（動作等）
参加チーム	<ul style="list-style-type: none">① 移動、競技会期間中における感染対策の立案② 選手、チーム役員、その他関係者への感染対策の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・手指消毒液の設置確認および切れていないか、不足箇所がないか確認する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・選手、チーム役員の体温を記入したものを管理、提出⑤ 換気の励行<ul style="list-style-type: none">・移動、控室、ミーティングルームでの換気

-2. 参加者への連絡

感染対策措置として、主管地区委員会は、以下項目からなる感染対策ルールを事前に伝えます。主管地区委員会感染対策責任者は、参加チーム感染対策責任者等の対応をします。また、運営に関わる運営スタッフ、ボランティア、その他関係者全員に対しても同様に事前に伝えます。

(2) 感染対策ルール

競技会および試合運営に関わる方々は、以下の事項を遵守する。

-1. 感染対策ルール

- ① 自主的に参加を見合わせる（以下の事項に該当する場合）
 - ・ 体調が良くない場合(例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合)
 - ・ 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② マスクを着用する
- ③ 咳エチケットに十分配慮する
- ④ 手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑤ 社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する
- ⑥ 3 密（密閉、密集、密接）を避ける
- ⑦ 握手、抱擁などは行わない
- ⑧ フィールド上での唾・痰吐き、うがい等は絶対にしない
- ⑨ タオル、飲料ボトルなどの共用はしない
- ⑩ 健康チェックシートの提出
- ⑪ その他主管地区委員会が示す注意事項を遵守する

-2. 参加対象者の特定（健康チェックシート提出予定者の特定）

参加チームは、2週間前に競技会または試合に参加、帯同する選手、チーム役員等の対象者を特定し、用紙の配布等により健康チェックシートへの記入準備を開始する。

-3. 健康チェックシート

以下事項を記載した健康チェックシートを回収し、健康状態について問題のないことを確認する。

- ① 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話番号、E メールアドレス）
 - ・ 個人情報の取扱いに十分注意する
- ② 競技会または試合開催当日の体温
- ③ 競技会または試合前 2 週間における以下の事項の有無
 - ・ 平熱を超える発熱
 - ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
 - ・ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - ・ 臭覚や味覚の異常
 - ・ 体が重く感じる、疲れやすい等

- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

-4. 参加可能な健康状態について

競技会 または 試合開催 2 週間前から当日までの健康状態において 発症 及び 症状消失の状況が認められた場合、以下①および②の両方の条件を満たす状況であれば出場、参加が認められる。

- ① 発症後に少なくとも 8 日が経過している
- ② 薬剤*を服用していない状態で、解熱後および症状**消失後に少なくとも 3 日間が経過している

*解熱剤を含む症状を緩和させる薬剤

**咳・咽頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢など

※8 日が経過している：発症日を 0 日として 8 日間のこと

※3 日が経過している：解熱日・症状消失日を 0 日として 3 日間のこと

尚、上記に該当しない場合であっても PCR 検査または同等の検査(Smart Amp 法検査等)により陰性が確認されれば、参加可能とする。

対象者への対応は以下のとおりとし、上記に該当しない場合は、各感染対策責任者が対応し、参加を自粛させ、最終的に主管地区委員会感染対策責任者が情報を把握する。

選手、チーム役員：当該チーム感染対策責任者

運営スタッフ：主管地区委員会感染対策責任者

(3) チームの移動

参加チームは、以下の点に留意して対応してください。

- ① チームの移動は、可能な限り、少人数で乗用車等を利用する
- ② 移動に際して、以下の点に留意する
 - ・マスクを着用する
 - ・長時間（2 時間以上等）移動の場合、複数台に分乗して選手間の社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）の確保を検討する
 - ・1 時間につき 3 回の換気を推奨として、窓を開けて換気する

2. 会場管理における感染対策

(1) 試合の開催方法

-1. 無観客試合

原則、当面の間、無観客試合とする。

-2. 無観客試合に来場できる方

試合会場への来場者を限定する

1	両チーム 選手、チーム役員	7	担架要員
2	審判員	8	記録要員
3	マッチコミッショナー	9	会場ドクター/看護師
4	審判アセッサー	10	JFA・両チームオフィシャルカメラマン
5	主管地区協会スタッフ	11	メディア（ペン記者、カメラ、ENG）
6	ボールパーソン		

但し、上記以外の試合運営上の役割がある場合に限り、試合の1週間前までに主管地区協会に届けることとする

(2) 会場管理

-1. 会場の衛生管理

① 手指消毒液

- ・使用するすべての部屋または各フロアの動線上に手指消毒液を設置する

② 石鹼

- ・トイレの手洗い場には、石鹼（液状ポンプ型が望ましい）を用意する

③ ペーパータオル

- ・ペーパータオルの設置は主管地区委員会の判断として、設置する場合はゴミ回収等の衛生面に注意する

④ チームエリアの消毒

- ・換気を十分に行い、机、イス、ドアノブ等を可能な限り消毒する

⑤ ドアの開放

- ・ドアノブに触れる頻度を下げため、ドアはできるだけ開けたままとする

⑥ 喫煙所

- ・原則、喫煙所は、設置しない

(3) 会場の諸室環境

主管地区委員会は、以下の点に留意して会場を設営します。

これらを実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。マスクの着用等により自己防衛をした上で競技会に参加してください。

また、各諸室の窓、ドアの開放、運営関係者及びチーム関係者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まりますので、こまめな水分補給を心掛けましょう。

-1. 諸室

運営諸室において、以下のとおり設定する。

- ① 各部屋に手指消毒液を設置する
- ② 全てのドア及び窓を開け、3密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ
- ③ ドリンクを冷やすためのドブ漬けは使用しない
- ④ 座席を設置する際に前後左右 1.5～2m間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する

-2. 手洗い場所

関係者、参加チームの選手・スタッフ、マッチオフィシャルが競技会の際に手洗いをこまめに行えるよう、以下のとおり設定する。

- ① 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹼を用意する
- ② 手指消毒液を設置する

-3. トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、以下のとおり設定する。

- ① 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹼を用意する
- ② 手指消毒液を設置する

-4. ゴミの廃棄方法

- ① ゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する
- ② ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄する
- ③ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹼と流水で手を洗い、手指消毒する

3. 競技運営における感染対策

(1) 参加チーム、審判員、及び競技

-1. 会場への到着

- ① 両チームは、競技会規定の指定時刻までに各自会場に到着する
- ② 審判員は各自到着し、試合終了後、各自退出する

-2. 試合当日の体温測定

参加チーム及び審判員は、以下のとおり対応する。

経過	参加チーム(選手・チーム役員)	審判員
② 当日の検温	会場到着以前にチーム全員の体温を各自測定する	会場到着前に各自検温する
③ 37.5℃以上の場合	・ 当該者は、会場に来場しない ・ もしも、会場へ向かっている間に発熱した場合は、自宅に戻る	・ 会場の管理エリア内に入ることはいない
	・ 参加チームの感染対策責任者は、主管 FA の感染対策責任者と情報共有する	主管地区委員会の感染対策責任者と情報共有する
	・ 新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合、帰国者・接触者相談センター等へ連絡し相談の上、医療機関を受診し、検査等の適切な処置を行う ・ 疑い症状がない場合、適切に経過観察する	・ 新型コロナウイルス感染症の疑い症状がある場合、帰国者・接触者相談センター等へ連絡し相談の上、医療機関を受診し、検査等の適切な処置を行う ・ 疑い症状がない場合、適切に経過観察する

-3. 参加チーム及び審判員全員に求められること

[感染対策ルール](#) を遵守する。

-4. 競技用具、備品の消毒

- ① 試合開始前にボール、コーナーフラッグ、ゴールポストを消毒する
- ② ボールは、ハーフタイムにも消毒する

-5. ボールパーソン、担架要員

- ① 無観客試合でのボールパーソン、担架要員は、大人が担当するように検討する
・ ボールパーソンの人数をできるだけ少なくする方法を検討する
- ② マスクの着用
・ マスクを着用し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つ

-6. フィールドインスペクション

マッチコミッショナー、運営責任者、審判員は、マスクを着用し 3 密を避けて社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って、短時間に行う

-7. マッチコーディネーションミーティング

マッチコミッショナー、運営責任者、両チーム代表者等、審判員は、3密を避けて短時間に行う。
主管地区協会は、マッチコミッショナー、両チーム代表者等、審判員に対し、試合運営の留意すべき事項を書面にまとめて事前に伝達する。

〔主な感染対策確認内容〕

- ・ 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない
- ・ 両チームベンチへの挨拶を実施しない
- ・ 倒れた選手に手を貸さない
- ・ 口に含んだ水を吐かない
- ・ 水・氷を溜めたクーラーボックスを共用しない
- ・ タオルを共用しない
- ・ ピッチ上で密集密接（手をつなぐ、肩を組む）となる円陣は行わない
- ・ 尚、密集、密接にならずに社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って円になって集まることは認められる
- ・ エスコートキッズは実施しない
- ・ 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない
- ・ ボトルを共用しない
- ・ ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する
- ・ ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない
- ・ ベンチではマスクを着用し、会話を控える

-8. 試合開始前のウォーミングアップ

ピッチ上でのウォーミングアップ

- ・ 選手、チーム役員は、マスクをしなくてよい。審判員はマスクをしなくてよい

-9. 試合開始前の、審判団による選手チェック及び用具チェック

ベンチアウト後、ベンチ前で行う。

チーム選手、審判員等が社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つようにする。

-10. 選手及び審判団のピッチ入場～キックオフ

① 入場

本部側センターライン両側より、両チーム及び審判員とも入場する

② 握手セレモニーは行わない

③ チームの集合写真撮影は認められる。

但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つこと

④ コイントスは審判団及び両チームのキャプテンにより実施する。

但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つこと

⑤ ピッチ上で密集密接（手をつなぐ、肩を組む）となる円陣を組むことは行わない

尚、密集、密接にならずに社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って円になって集まることは認められる

-11. チームベンチ

- ① 1 席空けて座る
- ② 入り切らない場合は、ベンチを増やして対応する
または、主審および両チームで事前に合意した場所で待機を設定する
- ③ 一日複数の試合が行われる場合は、入れ替え時に消毒液でベンチシートなどを拭き取る
- ④ ベンチの選手及びチーム役員は、マスクを着用する
但し、テクニカルエリアで指示を送る際、アップ時は、マスクを外しても良い
- ⑤ 不要な会話・接触は控える
- ⑥ 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、
屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には、マスクを外してよい

-12. 試合中の飲水

- ① 原則飲水ボトルの共用を避ける
 - ・ ペットボトルでのピッチレベル設置使用可（但し、スクイズボトルタイプのキャップに交換する）
但し、使用したペットボトルは必ず破棄すること
- ② 氷水にスポンジを入れて体を冷やすことは、体を冷やすだけであれば容認される
但し、スポンジで顔を拭うことは行わない
- ③ 選手が口を付けフタをしたボトル等をクーラーボックスに戻すことは、絶対に避ける

-13. 飲水タイム

- ① 飲水ボトルの共用を避けることから、十分な水分補給の機会が見込めないため、W B G T の数値に関係なく飲水タイムを設定し、パフォーマンス向上につなげる
尚、飲水ボトルの共用を避ける措置が可能であれば、主催者の判断により飲水タイムを設けずに対応することもできる
- ② 「熱中症対策ガイドライン」に基づき、W B G T の数値が条件に達した場合は、Cooling Break を実施する

-14. ゴールセレブレーション

- ① 社会的な距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保って実施する

-15. ハーフタイム

- ① ベンチでは、社会的な距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つこと。
- ② ボールを消毒する

-16. 試合終了時のセレモニー

両チーム 及び 審判員はピッチ中央に集まり、本部、ベンチに向かって挨拶を行う。
但し、社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を保つよう十分配慮する。

- ① 握手、ハイタッチ、抱擁は行わない
- ② 味方、相手チームベンチ前、本部前での挨拶は、行わない。

4. 事後対応

競技会終了後、以下の通り対応します。

-1. 健康チェックシートの保存

主管地区委員会は、万が一、感染が発生した場合に備え、個人情報への取扱いに十分注意しながら、競技会当日に参加した選手、スタッフ、メディア、運営関係者から提出された健康チェックシートに保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記し、保存します。また、保存期間経過後、健康チェックシートを廃棄します。

-2. 参加者の状況確認、対応

競技会終了後14日以内に、運営スタッフ等から新型コロナウイルス感染症の症状が出た場合には、帰国者・接触者相談センターやかかりつけ医、地域の相談窓口にご相談します。その後、新型コロナウイルスの陽性反応となった場合は、保健所の指示に従うとともに、主管地区委員会はYFAに報告します。

その後、YFAよりJFAに報告します。

また、チームから感染者発生のご報告があった場合にも、同様にその旨 YFA に報告します。

5. 夏季における熱中症予防に向けた留意点

気温の上昇する夏季においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用などの義務化により、熱中症を発症するリスクが高まることから、感染拡大防止に向けた取り組みに併せて熱中症を予防します。

-1. マスクの着用

マスクの着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけます。

また、高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクを外しても構いません。

-2. エアコンの使用について

諸室等においてエアコンを使用する場合も、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行います。換気により室内温度が高くなる場合があるため、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしてください。

-3. 涼しい場所への移動について

参加者に対しては、少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所へ移動するようアナウンスします。

なお、会場の関係で、医務室等の諸室にすぐに入ることができない場合は、屋外でも日陰や風通しの良い場所への移動を促せるよう事前に準備します